



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〔第四号〕

立春

りっしゅん

二月四日



## 湯たんぽ

スーパーマーケットに並ぶ野菜の中に、朝熊小菜あさまこなを見つけました。朝熊山のふもと朝熊地区で収穫される、小ぶりの朝熊小菜は、春先にだけ出回る菜っ葉。季節を告げる野菜です。

暦の上での春、立春。旧暦では節分の翌日のこの日から一年の始まりとなりました。しかし、二月はむしろ寒さのピークで、風邪をひきやすい時期でもあります。そんな寒さ対策として見直したいのが、湯たんぽです。おかげ横丁に行くと、茶店の縁台に手あぶり代わりに置いてありました。手をあてると、じんわりと温みが伝わってきます。

湯たんぽの「たんぽ」は、中国の「湯婆」から。室町時代に伝わり、日本ではもう一つ「湯」をつけて「湯湯婆」と書くようになりました。江戸の元禄年間（一六八八〜一七〇四）にはすでに使われていたとか。かつて陶器が主流でしたが昭和に入って金属製が出回り、電気毛布や電気あんかのない頃には暖房具として必需品となりました。昔は布おむつもこの湯たんぽで温めたとか。「人肌の温みがいいのよ」と教えてもらって、さっそく試してみました。

寝る前にポットの残り湯をプラスチック製の湯たんぽに入れ、布袋にくるみ布団へ。すると寝入りばなは温かくて、段々と温度が下がり、朝にはぬるくなっています。人肌の温みにその夜はぐっすり眠りました。体に負担がかからず、しかも電気代もいらないうすぐれものです。

自然な温みがうれしい春は名のみの二月です。

文 千種清美